

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 ナノデス アクキュライズV	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.512	ΔRG 0.051	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：アクキュライズV

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

MB **4in1/2**

番

比較対照ボール：アクキュライズIV

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ

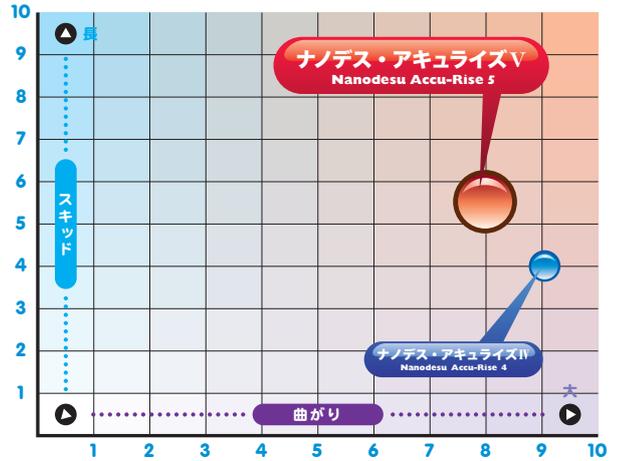
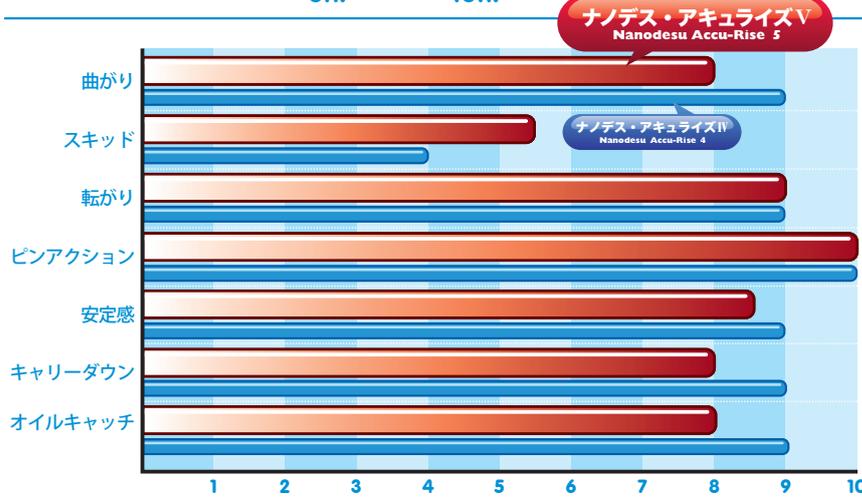
PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

MB **4in1/2**

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レングス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

匠の技の代名詞と言える国産ブランド。中でもナノデスシリーズはNano-Thaneカバーストックを導入後、飛躍的にパフォーマンスは向上し、Nano-Thane2.0(Level 2)のAccu-RISEに始まり現在ではRISE 4の5.0(Level 5)まで皆さんに体験して頂きました。今回発売するAccu-RISE 5はNano-Thane 3.0 (Level 3) Pearlを採用し、心臓部に新型コアを搭載して発売致します。このAccu-RISE 5は新しいTechnologyがコアと仕上げに組み込まれていますので、細かく紐解いていきたいと思ひます。まず今回初採用された"SS Premium Core"と名付けられた新型非対称コアは、国産最強と謳われるPREMIUMコアをベースに側面のボディをシェイプする設計で現行のPremium CoreのRG:2.46 ΔRG:0.055 Int Diff 0.016から、RG:2.51 ΔRG:0.051 Int Diff 0.023へ変更、今までの安定感のある転がりの中にバックエンドの鋭い動きを強調させた、「オイルキャッチ性能とバックエンドの鋭い動きの融合」がAccu-RISE 5の開発コンセプトです。今回キャッチを担うNano-Thane 3.0 Pearlと言えばAccu-RISE 2と同じですが、同じカバーでもPearlの配合比を増やして多孔質素材でポリッシュすることで"鏡仕上げ"になり、見た目も性能も全く異なったLevel 3が表現されています。第一印象は吸い付くようなウエット感のある手触りから、Level 3のカバーでも走りを意識した作りなのはコアの慣性と表面仕上げで分かりました。テストドライブで感じたのは中盤から後半にかけてエネルギーが集約している運動性能は、コアの設定もさることながら表面仕上げも十二分にマッチしていて、やや強めのカバーでもスキッド部分でキャッチ感が強く出過ぎないイメージが出ています。やや高め慣性のあるコアと強めのカバーながらスキッドを活かす表面仕上げとのマッチングは、スムーズなスキッドと安定感のある転がりバックエンドでの鋭い動きの三拍子揃った、新たな可能性を見出した国産ならではの匠の拘りが作品に仕上がっています。これに国産ならではの柔らかく飛ぶピンアクションで幅広いボウラーを魅了することでしょう。

特記事項

Premiumコアをベースにバックエンドまでエネルギーを集約させられるようにコアとカバーの調整を行った鋭い動きを求めたのがAccu-RISE 5です。